

関口存男における前置詞 von と aus

著者	佐藤 清昭
雑誌名	浜松医科大学紀要. 一般教育
巻	27
ページ	9-22
発行年	2013-03-14
URL	http://hdl.handle.net/10271/2635

関口存男における前置詞 von と aus

佐藤清昭

(日本語・日本事情)

Die Präpositionen „von“ und „aus“ bei Sekiguchi T.

SATÔ Kiyooki

Japanisch u. Japanische Angelegenheiten

Zusammenfassung

Der japanische Philosoph und Sprachwissenschaftler SEKIGUCHI Tsugio (1894-1958) wollte nach seinem monumentalen Werk „Der Artikel“ (Tokyo 1960/61/62, 3 Bde., insgesamt 2 301 Seiten) Arbeiten wie „Die Präposition“, „Das Adjektiv“, „Das Adverb“ u. a. schreiben, die aber wegen seines Todes nicht ausgeführt werden konnten. Uns, die ihm nachfolgenden Forscher, interessiert nun, was für Werke über diese Themen in Bezug auf Inhalt, Form und Umfang entstanden wären.

Die Absicht der vorliegenden Arbeit besteht darin, die Bedeutungstypen („imi keitai“) der Präpositionen „von“ und „aus“, die sich bei SEKIGUCHI's Werken und bei seiner Sammlung der Beispielssätze, Collectanea, befinden, aufzuzählen und ordnungsgemäß darzustellen.

Es lassen sich bei SEKIGUCHI 9 Bedeutungstypen von „von“ und 6 von „aus“ feststellen, die teilweise in Über- und Unterverhältnissen stehen.

key words: SEKIGUCHI Tsugio, grammar, preposition, German prepositions „von“, „aus“

キーワード: 関口存男, 意味形態, 前置詞, von, aus

0. はじめに

0.1. 本稿は、関口存男研究の「前置詞編」のうち、von と aus の項を成すものである。同研究「前置詞編」の現在までの軌跡については、以下の論文を参照されたい。

佐藤清昭 (2000): 関口存男による前置詞の意味分類 —「激突急停止の in」(ほか)と「前置詞論」—。

所収: ドイツ語学研究 (冠詞研究会) 10, 11-48 ページ。

— (2002): 前置詞研究のあり方。「関口存男: 前置詞論」試案 — an を例として。所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 16, 31-53 ページ。

— (2003): 関口存男における前置詞 auf. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 17, 43-66 ページ。

— (2004): 関口存男における前置詞 in. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 18, 53-79 ページ。

— (2005): 関口存男における前置詞 mit. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 19, 25-47 ページ。

— (2006): 関口存男における前置詞 zu. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 20, 11-35 ページ。

— (2007): 関口存男における前置詞研究。 — 意味形態の普遍性 —。 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 21, 35-75 ページ。

— (2008): 関口存男における前置詞 unter と bei. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 22, 1-23 ページ。

0.2. これらの研究においては、an, auf, in, mit, zu, unter, bei の「意味の種類」をそれぞれ 22, 34, 25, 22, 22, 6, 10 確認し、それらを例文とともに示した。本稿で確認した前置詞 von と aus の「意味の種類」は、それぞれ 9 と 6 であった。

なお本論考は、1) 関口存男がその研究書と啓蒙書の中で各前置詞について行っている説明と例文を整理してまとめたものと、2) 文例集に認められる「意味の種類」とその例文、より成っている。したがって、その性質上、以下の説明は基本的に関口の言葉による。ただし、文例集からの例文など、日本語訳のついていない場合は佐藤の私訳をのせ、それはカギ (「」) で囲むことにより、関口の訳から区別した。

1. 前置詞 von の意味形態

von の元来の意味は、派生、出所を指す「... から」。(前置詞の研究: S. 90)

① 部分化の von, Partitiv の von

◆ Ich esse *vom* Brot. の von を「部分化の von」と呼ぶことは、語感上決して不適當ではない。なぜかといえば、Ich esse vom Brot. と言えば、語感は当然 Ich esse etwas vom Brot. と考えるからである。etwas vom Brot とはすなわち einen Teil vom Brot あるいは einen Teil vom vorhandenen Brot である。ゆえにこの際「部分化的」(partitiv, partitivisch) という考え方は正しいと言うべきである。

Von allen Lebewesen habe ich nur noch die Hunde gern. あらゆる動物の中で、好きなのは今のところもう犬つきりだ | *Von diesem Volkslied* habe ich nur noch die Melodie behalten. この民謡は、もう節だけしかおぼえていません | *Von ihrer früheren Erscheinung* war kaum noch etwas übrig geblieben. 「彼女の以前の容姿はほとんど何も残っていなかった」 | In eurem Kopf liegt Wissenschaft und Irrtum / Geknetet, innig wie ein Teig zusammen; / Mit jedem Schnitte gebt ihr mir *von beidem*. (Kleist: *Der zerbrochene Krug*) あなたの頭の中には、真の知識と誤謬とが、まるでパン粉を練ったようにごっちゃにごね合わせてはいつている。ちょっと何かおっしゃると、聞く方では、その両方をゴチャゴチャッとご馳走になるわけです | Wir steigen einmal aus da, Herzenskind, und holen *von den blauen Glocken*, die dort so hübsch im Schatten stehen. (Mörke: *Mozart auf der Reise nach Prag*) どうだおまえ、あすここでちょっと馬車を降りて、あの木陰にきれいに生えているマツユキソウの花をつんで来ようではないか | Geh, mein Liebling, / Der Pfarrer soll *von unserm Weine* probieren. (G. Hauptmann: *Die versunkene Glocke*) はやく持ってお行き、牧師さんにうちのブドウ酒を飲んでみてもらわなければ | Felix sah ihr zu, wie sie den Kaffee schlürfte, schüttelte aber den Kopf, als sie ihm *davon* anbieten wollte. (Schnitzler: *Sterben*) フェーリクスは彼女がコーヒーをすすめるのをじっと見ていたが、彼女が、あなたもどう、と言って出そうとすると、かぶりを振った | Als hätten wir *von einem Zauberkrout* gegessen, so kam ein erbitterter Ton in die Gespräche. (Hans Carossa: *Führung und Geleit*) まるで魔法の薬草でも食ったように、話の調子が何だか少し物騒になってきた | Viele deutsche Offiziere und zwar gerade nicht *von den gewöhnlichsten*, waren aus der Heimat entwichen und gegen Osten gezogen. (E. Moritz Arndt: *Erinnerungen aus dem äußeren Leben*) 多くのドイツ将校 — しかもそれが必ずしも平凡な連中ではないのだが — が故郷を後にして東欧へと向かった | „Nun, — Helene ist *von denen*, die sich aussprechen müssen um jeden Preis ...“ (R. M. Rilke: *Der Liebende*) そう ヘレーネという女は、何か考えたらとことんまで口に出して言わないといられない性の女でね

◆特に注意すべきは、たとえば *Ich esse davon* 等は、元来の意味はもちろん「部分化的」すなわち、「その一部分を取って食べる」ことではあるが、実際的にはなんなら全部をたべてもかまわないわけで、単に「既出概念を受ける」だけの機能しかないことが多い。すなわち *Ich esse davon* は、たとえば次例におけるごとく「私はそれを食べる」なのである：

Nachher bringe ich beide zur Bahnstation. Sie geben mir ein Glas Marmelade und ein Paket Kartoffelpuffer, die meine Mutter noch für mich gebacken hat. Dann fahren sie ab, und ich gehe zurück. Abends streiche ich mir *von der Marmelade* auf die Puffer und esse davon. (Remarque: *Im Westen nichts Neues*) あとで私は二人を駅まで送って行く。二人は私にガラスの容器に一杯のジャムと、馬鈴薯のパンケーキを一包みくれた。母が私のために焼いてくれたものだ。それから二人は発ち、私は元来た道を帰った。晩、そのジャムをパンケーキにぬりたくって、そしてそれを食べた

【冠詞 I: S. 258, 631-634; ドイツ語研究 (三修社) 6 (1982): S. 57-58, 69-75; 文例集 75 (von, vor): S. 4-6, 8-14, 237-244, 245-253】

② 内容挙述の von

Alles, was meine Kinderzeit **von Freud und Schmerz gebracht**, habe ich seither schon wieder vergessen. 幼年時代がもたらした喜怒哀楽は、その後またけろりと忘れてしまいました | Alles, was sie jemals **von mitternächtigen Spukgeschichten** gehört, erwachte in ihr, sobald sie allein schlafen musste. 一人きりで寝させられると、今までに聞いた限りの真夜中のお化けの話が、またもや彼女の追憶の中に目覚めるのであった | Was sonst **von Menschen** im Hofe lebte, lag und schlief, denn es war gerade Mittagszeit. 農園に生活しているその他の人たちはみんな横になって眠っていた、というのはちょうどお昼頃だったので | Wenn alles dasjenige, was **von Geistern** der Schulknabe herbetet, der große Haufe erzählt und der Philosoph demonstriert, zusammengenommen wird, so scheint es keinen kleinen Teil von unserem Wissen auszumachen. (Kant) 小学校の生徒あたりが無意識に口にしたり、大衆が物語ったり、哲学者が証明したりするいわゆる妖怪なるものを一括して考えるに、どうもそれらが吾人の(妖怪に関する)知識の相当の部分を成しているように思われる | Es kehrt nur zurück, es kommt mir endlich heim --- mein eigen Selbst, und was **von ihm** lange in der Fremde war und zerstreut unter alle Dinge und Zufälle. (Nietzsche: Zarathustra) そはただ還り来るにすぎざるなり、そはただ遂に我が家に帰り来るなり --- およそ我等自身の自我、並びにわれら自身の自我にして久しく異郷をさすらい、物みな、かりそめなる事みなの中に散らばいいたるものすべてが

◆「部分化の von」の一重形である。

◆同じく「内容挙述」を表す was (...) an ... と was (...) von ... との間にはどんな区別があるかという、これは非常に細かい問題で、anの方はwasの「内容」を詳述し、vonの方はwasの派生的「出所」を規定するとでも言うほかない。たいていの場合には、どちらを用いても大して変わらない。

◆ was ... von (an) ... と was ... für ... とはどう違うか? fürの場合にはwasは「質」を表し、von (an)の場合はむしろ「量」を表す。すなわち Was er **von (an) Bargeld** bei sich führt と言えば、「彼が現金として持っている『限り』のもの」(これが量概念)の意であるが、Was er **für** Bargeld hat と言えば、「彼は一体どんな『たち』(これが質概念)の現金を持っているか」の意になる。この「量の概念」というのが、von, anの際には非常に重要になってくる。

【ドイツ語前置詞の研究: S. 23-30; 和文独訳の実際: S. 84-87; 冠詞 I: S. 623-625】

③ 同一視の von, Identitäts-von

◆日本語でも、たとえば「伊藤の畜生が」どうしたとか、「課長の野郎が」どうのこうのと言う。この際の「の」に相当するものが西洋語にもあるが、ドイツ語では、こういう際には2格を用いないで、vonを用いる。

Obendrein hat mich ein Schelm **von Schneider** noch sitzen lassen. (*Schiller: Kabale u. Liebe*) おまけに仕立屋の奴までがわしにおいてけぼりを食わせやがった | Er ist das Muster **von einem Schüler**. (*DUDEN*) 「彼は生徒のお手本だ」

◆この場合、論理的文法機構が一定している。たとえば *dieser Schuft von Schneider* 「この仕立屋の畜生が」と言えば、*Schuft* は *Schneider* の性質を述べるもの、すなわち述語である。*dieser nichtswürdige Schneider* とか *dieser niederträchtige Schneider* とか言うのと同じことである。すなわち、*von* の前に置かれる名詞は必ず *von* の次に置かれる名詞に対する述語（客語）でなければならない。

つまり *von* の元来の機能から考えると順序が反対であるかのような感じを与える。なぜというに、述語ということを見ると、たとえば *eine Frage von aktueller Bedeutung* 「時事価値のある問題」とか、*eine Forschung von großem Umfang* 「広範な研究」とかいったような、つまり *von* の「次に」述語的に用いられる概念を持ってくる場合がすぐに考えられるからである。

くわえて、*von aktueller Bedeutung*, *von großem Umfang* などの *von* は、次に来る名詞によると2格を用いてもよろしいが (*Ein Stamm germanischen Ursprungs* ゲルマニヤ系統の民族, *Eine Familie jüdischer Herkunft* ユダヤ系統の家柄), *Identitäts-von* は決して2格をもっては言い換えられない。これはひとつは口調上の要求からである。すなわち、たとえば *Ein Schelm von Schriftsteller* (人の悪い作家) などというときには、*Schelm* にも *Schriftsteller* にも、ほとんど同じくらいの *Nachdruck* を置き、いわば同じことを「適當の距離を置いて」繰り返すといったような気持ちで言うのであるから、その適當の距離（必ずしも時間の長さのみの問題ではなく、心理的な距離である。*Schriftsteller* も *Schelm* も、いずれも相當の独立性を保たなければならない。どちらが主で、どちらが従というように聞こえてもならないのである）を得んがためには、2格で結びつく関係ではあまりに関係が密接すぎるから、わざわざ *von* を用いてゆとりを取るというわけである。

◆意味の上から言うと、いずれにしても多少罵言的色彩を帯びるのが特徴である。たとえそれが時には好意の表現としての罵言であるにしろ、とにかく形としては罵言である。

Wenn ich auftrete, zittert ein Herzogtum! Laß doch sehen, ob mich ein Starrkopf **von Sohn** meistert! (*Schiller: Kabale u. Liebe*) 我が輩が姿を現せば天下の公国が縮みあがるのだ。せがれ風情が我を張ってまるめられるものならまるめてしろ | Der milzsuchtige, podagrische Moralist **von einem Gewissen** mag runzlichte Weiber aus Bordellen jagen und alte Wucherer auf dem Todesbett foltern — bei mir wird er nimmermehr Audienz bekommen. (*Schiller: Räuber*) 良心なんていう気のむつかしい脚通風にかかった理屈屋みたいな野郎は、揚屋からしわくちの女郎を追いついたり、死にかかった因業おやじをいじめたりしていればいいんだ — 我が輩のところへなんか来たってお目通りは絶対に叶わんぞ | Nebenbei gesagt, damals noch ein enges Loch **von einem Lokal** in einem uralten, wankligen Häuschen, wo aber, was man genießt, vorzüglich war. (*Adlersfeld-Balleström: Das Zeichen des Ringes*) ついでに言うと、当時はまだほんのちっぽけな狭い料理屋で、とても古ぼけた、ぐらぐらの家の中にあっただが、それでもかな

り美味しいものを食わせたと記憶している | Das nenne ich einen Wirt! Kein kriechender Katzenbuckel, aber doch zuvorkommende Aufmerksamkeit; feines, gebildetes Betragen, aber doch unermüdlicher Dienstleister, kurz eine Prachtausgabe **von Wirt**. 料理屋の主人はまさにかくあるべきだ。決してへつつくばってはいないが、そのくせとてもよく気がつく、起居振る舞いも、品があって、磨きがかかっているが、そのくせ腰が軽くて、何を頼んでもちっともうるさそうな顔をしない、要するに、旅館経営者の豪華版だ | Eines Tages, nachdem er sich wieder um den Sinn der Dünung und Trübung abgearbeitet hatte, rief er: Wenn ich dieser Bestie **von Buch** nur erst an einem Flecke beigegeben bin, so gibt sich vielleicht das übrige von selbst! (Immermann: *Münchhausen*) 或る日のこと、また例のごとく希薄化だの混濁化だのという奴としばらく取っ組んでみた後、彼は思わず叫んだ：このやっかい千万な本め、どこか一箇所が判りさえすりゃあ、あとは自然とわかるんだろうがなあ！ | Widriger aber sind mir noch alle Speichellecker; und das widrigste Tier **von Mensch**, das ich fand, das taufte ich Schmarotzer: das wollte nicht lieben und doch von Liebe leben. (Nietzsche: *Zarathustra*) さらに不愉快なるはすべてのおべっか使いなり。およそ余輩の見出したる最も不愉快なる種類の動物たる人間を余輩は称して寄生虫と呼びぬ。如何となれば彼らは愛せんことを欲せず、しかも愛によって生きんと欲したればなり

◆この形態は、特にフランス語において非常に発達しているから、17, 8世紀以前から盛んにドイツ語に影響を与え始め、フランス語の *de* とドイツ語の *von* との類似を基礎にして、今日のような、ほとんど意味形態の上で寸分の相違もない共通現象ができあがってしまった。

【ドイツ語前置詞の研究: S. 81-87; 文例集 29 (前置詞): S. 732-741】

④ 責任の所在を指す **von**

Es war sehr freundlich **von ihm**, mir diesen Gefallen zu tun. 私にこれだけの好意をつくしてくれたのは、彼として実に親切なことであった

◆「彼として」とは、「彼の側から私に対しての仕打ちとして」ということ。

◆この *von* を用いる際には次のような条件がそろっていなければならない：

1. *von* は人間を指す語を支配する：

von ihm, von Ihnen, von deinem Vater などなど。もちろん人間以外のものもあるが、その場合は人格化して考える。たとえば：Es ist höchst blödsinnig **von den Feiertagen**, dass sie zuweilen mit Sonntagen zusammenfallen. 時々日曜日と同じ日になるというのは、祭日として少し人を馬鹿にした話である

2. Nennsatz (命名文) の一文肢として現れる：

「AはBである」という関係を言い表す文を、Sanders にしたがって Nennsatz と名づけると、この *von* は必ずそうした Nennsatz のみに現れる。(Nennsatz の大部分は *sein* を介して主語と述語とが結びつ

けられる。たとえば Ein Satz, der das Verhältnis $A = B$ ausdrückt, ist Nennsatz. は Nennsatz である。ist が heißt になっても, wird ... genannt になっても同じである。また Man nennt den Satz, der das Verhältnis $A = B$ ausdrückt, einen Nennsatz. と言っても, ここでは主語も述語も 4 格になっているけれども, やはり Nennsatz である。)

Ich finde das doch unerhört **von dir!** それは貴様として実に怪しからんではないか | Das war sehr vernünftig **von ihnen**, dass sie darauf verzichtet haben! 彼らがそれを断念したのは, 彼らとして非常に賢明な策だった | Es war einfältig **von mir**, dass ich dich Sie nannte, aber ich war so überrascht, ich erkannte dich nicht. 君に「あなた」なんて言ったのは, 僕はどうかしていたのだ, ところがあんまり突然だったものだから, 誰かと思ったのだよ | Es ist gemein **von dir**, dass du vom Spiel aufstehst, wo ich dir Revanche geben will. おれがせっかく復讐戦をしようと思っているのに, 勝負をほったらかして立ち上がるなんて, 君として実にけしからんじゃないか | Das war unehrerbietig **von dem Sohn!** (Schiller: *Jungfrau von Orleans*) それは息子として甚だ無礼な仕儀だ | Es ist gar hübsch **von einem hohen Herrn**, so menschlich mit dem Teufel selbst zu sprechen. (Goethe: *Faust*) 悪魔風情とまでもこのようによく分かったお話をしてくださるとは, 偉いお方なのに, さても奇麗なことでござる喃 | Aber es ist wirklich schön **von dir**; es tut mir nur leid, daß du deiner Braut unnütz die Augen rot machst. (Otto Ludwig: *Zwischen Himmel und Erde*) しかしまあよく帰ってきてくれた, ただ, 何の理由もなく花嫁君を泣かせておくというのは実に罪な話だね | Diese guten Bürger sind entzückt über unser Arrangement. — Das mit dem Fest war ein vortrefflicher Gedanke **von Ihnen**, Blumenberg! (G. Freytag: *Die Journalisten*) 市の野郎どもめ, おれたちの計画を聞いてとても喜んでいるそうだけ — とにかく君の発案による夜会の件は上乘の案だったね, ブルーメンベルク | Es ist in jedem Fall sonderbar **von dem Fräulein**, daß sie lieber bei den Leuten zu Hause bleiben will, als ihren Vater zu ihren Verwandten begleiten? Nicht? (Strindberg: *Fräulein Julie*) お父様とご一緒に親戚の人たちの所へお出ましにならないで, 使用人たちと一緒に留守をなさるなんて, いずれにしてもお嬢さまのなさることはちょっと変だとは思わないかい? | Ich weiß wirklich nicht, ob es gerade taktvoll **von meinem Herrn Nachfolger** ist, immer wieder auf seine Vorgänger zu verweisen. Aber wenn man nervös ist, beliebt man oft gegen andere zu polemisieren. 私の後釜に据わったあの人, 又しても又しても, 先に居た者のことを引き合いに出してかれこれおっしゃるのは, 世間的に言っても多少どうかと思いますね。しかしまあ, 機嫌でも悪い時には, つい人の悪口も言いたくなるものでしょうね

◆ von の元来の意味との関係：

Nennsatz には必ず $A = B$ の関係が対立結合しているが, その B, すなわち「述語」の方は形容詞の場合と名詞の場合との二つがある。ところで, この「責任の所在を指す von」がちょっと奇異な感じを与えるのは, 主として述語が形容詞の場合であって, 述語が名詞の場合には, 別になんでもないことが多い。たとえば：

Es war ein Missverständnis von Ihnen, wenn Sie glaubten, meine Anspielung ginge auf Ihre Person. 私の言ったことがあなた個人に対するあてこすりだと思いいになったとすれば、それはあなたの誤解です「あなた『の』』というのは、換言すれば、「あなた『の方から』私に向かって差し向けられた」の意、つまり「から」の意で、ここで von の「派生、出所を表す」という原意と一致するのである。

【前置詞の研究: S. 88-93】

⑤ 見地の von

◆「見地の von」を用いる最も普通な場合は、「形容詞」を見地規定する場合である。

Der Einband ist frisch **von Farbe**. この装幀は色が鮮やかだ | Er war groß und stattlich **von Gang**. 彼は背が高く歩き方が堂々としていた | Erna war bildschön **von Gestalt**. エルナは姿が絵のように美しかった | Er ist ein bisschen schwer **von Begriff**. かれは少し理解力が鈍い | Die Frauen sind kurz **von Verstand**. 女は知恵が浅い | Sie sind rasch **von Entschluss**. かれらは決心が速い | Der Mensch ist **von Natur** träge. 人間は生来怠惰である | Sie sind schwach **von Kräften** und schlaff **von Sitten**. 彼らは力弱く、道義心が弛緩している | Sie ist ein wenig schwer **von Leib**. 彼女は少しふとりすぎて大儀そうだ | Er war unternehmend und klar **von Gedanken**. かれは野心家で、考え方がはっきりしていた

◆もちろん述語は「形容詞」のみではなく、「名詞」でもよい：

Von Beruf ist er Maler. 商売は画工である | Er war ein Riese **von Wuchs**. 体躯巨大 | Wir sind versöhnt, seit heute sind wir Brüder, / Nicht **von Geburt** nur, nein, **von Herzen** auch. (Schiller: *Die Braut von Messina*) 「我らは仲直りした。今日から兄弟だ。血筋の上からのみではなく、心底から」 | Bei alledem ist's aber doch ein drückendes unwiderstrebliches Gefühl: „das ist keine griechische Tragödie! **von Zweck, Wirkung, Art, Wesen** kein griechisches Drama!“ (Herder: *Shakespeare*) しかしそれにも拘わらず、やはり何と云っても読者の印象を圧する抵抗し難き印象は、「これは絶対にギリシャ悲劇ではない！目的から言っても、効果から言っても、性から言っても、本質から言っても、断然ギリシャ悲劇ではない」という一語に尽きる

◆「見地の von」の後ろは必ず無冠詞であるが、それは「見地の von」の句が大抵簡単なものであって、同時に意味形態として「見地の副詞」と完全に一致するところから来ている。たとえば Ich kenne ihn **von Person**. 「私がかれを個人的に知っている」の von Person は persönlich と何の相違もない。

◆「見地の von」、或いは「見地の an」の代わりに bei を用いることは非常に稀であるが、用いるとすればやはり無冠詞である：

Nun, so gar sehr verfault war es doch auch eben nicht. Se. Exzellenz der Herr Graf sind nur ein wenig schwer

bei Leibe. (*Kotzebue: Menschenhaß und Reue*) いや、そう別にひどく腐ってボロボロだったというわけでもないんですがね。でもなにしろ伯爵閣下は相当太っていらっしやいますからな

【冠詞 I: S. 955, 979-980】

⑥ 形容の von, 性質の von

◆ 次に来る名詞と共に迂言形容詞を作る。

von Bedeutung (= bedeutend), *von Wichtigkeit* (= wichtig), *von Bildung* (= gebildet), *von Nutzen* (= nützlich), *von Bestand* (= beständig), *von Dauer* (= dauerhaft)

◆ 名詞は普通無冠詞である。たとえ名詞に形容詞を冠しても、形容詞と名詞とを合した総体が一つの形容的表現であるにすぎない結果、無冠詞形であることが圧倒的に多い。

Eine Frage *von gemeinsamem Interesse* 「共通の利害関係の問題」 | Dieser Stoff ist *von vielseitiger Verwendbarkeit*. 「この材料は多方面に利用可能である」 | Dieses Instrument ist *von erstaunlicher Präzision*. 「この器械は驚くほど精密に作られている」 | Diese Frage ist *von untergeordneter Bedeutung*. 「この問題はそれほど重要ではない」 | Das ist *von ausschlaggebender Wichtigkeit*. 「これは非常に重要である」 | Das Silber ist ein Metall *von hohem Glanz und großer Dehnbarkeit*. 「銀は、よく輝き非常によく伸びる金属である」

◆ けれども、ここにもやはり、形容詞に多少重点を置いて考えさせたい場合が実際としてしばしば起こってくる。たとえば「驚異的な美しさの婦人が突然私の眼前に姿を現した」は Eine Frauengestalt *von einer wunderbaren Schönheit* stand plötzlich vor mir. と言った方が wunderbar に念が入って達意眼目が徹底する。「此奴は実にあきれ返った頑固な男である」は, Der Kerl ist doch *von einer unglaublichen Verstocktheit*. と言った方が、本当にあきれ返った気持ちが出るのである。不定冠詞が「質の含みを効かす」機能を持っているという事実は、こうした、考えようによっては、有っても無くても、どちらでも大して違わないような微妙な場合において最もその語感的根拠がはっきりと意識に迫る。

【冠詞 II: S. 20, 453-455; 文例集 29 (前置詞), S. 785-810】

⑦ 原因由来の von

◆ durch の意：「... のために」

Der Tag war lau *vom Föhn*. (*Hans Carossa: Die Schicksale Doktor Bürgers*) 「日中はフェーンのために生暖かかった」 | Der Sessel war noch heiß *vom vorigen Besucher*. (*H. Steguweit: Die schwere Botschaft*) 「椅子にはまだ前の訪問者の熱が残っていた」 | *Vom Sitzen* sind mir die Glieder ganz steif geworden. 座ってばかりいたので手足が凝ってしまった | *Von bloßem Zuschauen* wird keiner satt. 見ただけでは

満腹しない | Oft erwachte ich **vom Ticken** der Wanduhr. 私はよく柱時計のカチカチいう音で眼がさめた | **Von dem Bücken** war sie rot im Gesicht geworden. しゃがんだために彼女は顔が赤くなっていた | Der Rock ist ihr hinten blank **vom ewigen Radeln**. しょっちゅう自転車を乗り回すために彼女のスカートのお尻はテカテカしている | Die Augen trünten mir **vom angestregten Schauen**. (Dr. Hans Hass: *Manta – Teufel im Roten Meer*) 「あんまりじっと見ていたので涙が出てきた」 | Sie war noch sehr schwach und empfindlich **vom Wochenbett**. (Zeitung) 「彼女は産褥期のためにまだ体力がとても弱っている」 | Li Tschang Yuang ist ein Mann in den vierziger Jahren, ziemlich groß, ein wenig gebeugt schon **von der Feldarbeit**. (Zeitung) 「Li Tschang Yuang は40代で、図体は大きく、野良仕事のために身体がすでに少しかがんでいた」

◆ 疑問は Woher?

„**Woher** können Sie deutsch?“ „Ich bin in Deutschland gewesen. Drei Jahre lang. Als Kriegsgefangener.“ (Reinhart Stalman: *Und du bist Staub*) 「『どうしてドイツ語がおできになるのですか?』『ドイツにいたんです。3年間。捕虜として』」

◆ 一部は「原因の über」と同じになる。たとえば：

Vom (Über dem) **Sitzen** sind mir die Glieder ganz steif geworden. | **Von** (Über) **bloßem Zuschauen** wird keiner satt. | Oft erwachte ich **vom** (über dem) **Ticken** der Wanduhr. | **Von** (Über) **dem Bücken** war sie rot im Gesicht geworden.

【冠詞 I: S. 812; 文例集 75 (von, vor): S. 201-221, 222-230】

⑧ 充溢的内容を指す von

◆ 何とかでいっぱい、何とかで真っ赤、何とかではちきれ、何とかで立錐の余地もない、何とかで重い、何とかで張り切っているなど、とにかく内容が多すぎてそのために云々である (形容詞)、云々する (動詞)、という関係の文句では、その形容詞または動詞を補足する「で」には、英語は *with* を用いるが、ドイツ語は *von* を用いるのが習慣である。

Der Boden wimmelt **von Ameisen**. (= *The ground is crawling with ants.*) 地面は蟻でうようよしている | Das Buch wimmelt **von Druckfehlern**. (= *The book teems with misprints.*) この本は誤植だらけだ

◆ wimmeln ばかりではなく、次のように自由に作文することができる：

Er glüht **von Gesundheit**. (= *He glows with health.*) かれは健康で燃えている、はち切れそうだ | Sie funkelt **von Geschmeide**. 彼女は指輪や首輪や腕輪でピカピカしている | Er phosphoresziert **von geheimen Plänen**. あいつは秘策あまって全身燐光を発している | Mein Kopf schwirrt **von deutschen Vokabeln**. ぼくの頭はドイツ語の単語でザワザワいっている

英語のように mit とすることもないではないが、稀である。

◆したがって voll という形容詞は（2格もともなうが）大抵 von を用いる：Mein Kopf ist **voll von deutschen Vokabeln**.

◆主語と動詞の関係がとんちんかんになる場合に注意。たとえば Dieser Teich wimmelt **von Fischen**. で「うごめく」のは魚で、池がうごめくわけではないのだが、充溢的材料があんまり活躍しすぎると、その責任がつい容器の方へ来るのである。（voller の場合も同じである。Das Zimmer sitzt voller Gäste. この部屋はお客様でいっぱいだ）

【海に潜る若者: S. 63-64; 文例集 75 (von, vor): S. 170-200】

⑨ 普通の「離れる」の von

Ein Storch flog **vom Schornstein** auf und kreiste langsam über dem Wasser. (*Storm: Immensee*)「一羽のコウノトリが煙突から飛び立ち、ゆっくりと水の上を旋回した」| das allerbehaglichste Lächeln verschwand **von dem Gesicht** der Frau Emma. (*nach Raabe. Abu Telfan*)「とても楽しげなほほ笑みがエンマ夫人の顔から消え去った」| Der Schlaf war längst **von mir** gewichen.「眠りはとっくに消え失せていた」| Abfall des Menschen **von seinem Gott** 「人間の神からの離反」 Die Regierungsseite sieht keine Veranlassung, **von ihrer militärischen Planung** abzugehen. (*Zeitung*) 「政府としては、その軍事計画を放棄する何の動機も持たない」

【文例集 75 (von, vor): S. 41-55】

2. 前置詞 aus の意味形態

① 動機の aus

◆動作の動機を指す

aus Furcht 恐怖の念から | **aus Versehen** 誤って | **aus Vorsicht** 用心して | **aus Liebe** 愛情から | **aus Neugier** 好奇心から | **aus Misstrauen** 猜疑心から | **aus Instinkt** 本能的に | **aus freien Stücken** 我から進んで | **aus freiem Willen** (同意) | **aus eigenem Antriebe** (同意) | **aus sich selbst** (同意) | **aus Gewissenhaftigkeit** 几帳面にしたいという気持ちから | **aus Gedankenlosigkeit** ついいうっかりしていたために | **aus technischen Gründen** 技術上の理由から | **aus politischen Beweggründen** 「政治的動機から」 | **aus finanziellen Rücksichten** 財政的顧慮から | **aus eigener Initiative** 「自発的に」 | Er ist nur **aus Liebhaberei** Arzt. 「彼は趣味で医者をやっているきりだ」 | Das tat er **aus Gefälligkeit**. 「それを

彼は好意からしたんだ」 | Man greift nach solchen Abenteuerschmökern nur *aus Sensationsbedürfnis*. 「人はセンセーションを求めるといふ動機によつてのみそのような低俗本に手をのぼすのである」 | Er war Junggeselle. Nicht *aus Überzeugung*, sondern *aus der traurigen Erkenntnis* heraus, dass ... (*Zeitung*) 「彼は独り者だった。確信に基づいてといふのではなく、次のような悲しい認識があつてのことである」 | und ich entschloß mich, eine Schifferkutte, die wir *aus Scherz* mitgenommen hatten, anzuziehen, die mir gute Dienste leistete. (*Goethe*) 「そこで私は、私たちが冗談で持つて行つた船員服を着ることにしたのだが、これが大いに役に立つてくれた」

◆「動機の aus」はたいていの場合副詞句を形成するものであるから、何か規定句でもともなう場合のほか、冠詞を省くのが普通である（「名詞的語局の棄揚」）。

◆「動機の aus」は、ほとんど機械的と言ってもよいほど、たいていの場合「挙示的掲称の語局」を要求する（したがって無冠詞）。

◆しかしこの無冠詞も、多少たりとも形容の方に念を入れようとするとう不定冠詞が要求される：「あんまり用心しすぎて」 *aus einer übertriebenen Vorsicht*；「まだよく分からない或種の本能から」 *aus einem bisher ungeklärten Instinkt*；「子供っぽい茶目気分から」 *aus knabenhaftem Mutwillen* あるいは *aus einem knabenhaften Mutwillen*

【和文独訳の実際：S. 115；独作文教程：S. 408-410；冠詞 I：S. 945, II：S. 453, III：S. 404；文例集 29（前置詞）：S. 1045-1071】

② 原因の aus

Im allgemeinen entsteht das Gelbwerden mancher Pflanzen *aus Kalimangel*. 「一般的に或種の植物が黄色くなるのはカリウムが不足しているためである」 | Es gibt manche Krankheiten, die *aus Vitaminmangel* entstehen. 「ビタミン不足が原因でなる病気がある」

【文例集 70 (auf, aus): S. 420】

③ 構成要素の aus

Das Wurzelhaar besteht *aus sehr zarten Zellen*. 「根毛は非常に繊細な細胞からなつてゐる」 | Der Kern des schwersten Atoms, des Uranatoms, besteht *aus 92 Protonen und 146 Neutronen*. 「最も重い原子であるウラン原子の核は 92 個の陽子と 146 個の中性子で構成されている」 | Der menschliche Körper ist *aus Zellen* aufgebaut. 「人体は細胞で構成されている」 | Ein ständiger Ausschuß *aus Vertretern* der Vereinigten Staaten, Großbritanniens und Frankreichs wurde gebildet. (*Zeitung*) 「アメリカ合衆国とイギリスとフランスの代表者からなる常任委員会が結成された」 | mit einer *aus Höflichkeit und Ekel* gemischter Aufmerksamkeit betrachten 「丁寧さと不快感が入り混じつた注意深さで観察する」 | Die Spitze des

Pfeils ist *aus Feuerstein* gemacht. 「矢の先は火打ち石でできている」 | Der Mensch ist ein Doppelwesen *aus Geist und Materie*. 「人間は精神と物質からなる二重の存在である」 | Die Lappen wohnen in kreisrunden Zelten *aus Rentierfellen*. 「ラップ人たちはトナカイの毛皮で作った円形のテントに住んでいる」

【文例集 70 (auf, aus): S. 426-429, 464-470】

④ 認識の出所を指す aus

Schwefelwasserstoff ist ein ganz übelriechendes Gas, das uns allen *aus faulen Eiern* bekannt ist. 「硫化水素は非常な悪臭のある気体で、それを私たちは腐った玉子のおいで知っている」 | Die Diagnose ist *aus dem Symptomenkomplex* leicht zu stellen. 「診断は一連の症状群から簡単に下すことができる」 | Ich habe die Geschichte *aus authentischer Quelle*. (Heine) 「私はこの話を信頼できる筋から知った」 | Der Sinn eines Wortes ergibt sich *aus dem Satzzusammenhang*. 「ひとつの語の意味は文中の前後関係から決まってくる」 | Zuvörderst muß bemerkt werden, dass eigentlich mathematische Sätze jederzeit Urteile a priori und nicht empirisch sind, weil sie Notwendigkeit bei sich führen, welche *aus Erfahrung* nicht abgenommen werden kann. (Kant) 「とりわけ述べておかなければならないことは、本来数学的な定理が常に先験的判断であって、経験的なものではないということである。なぜなら数学的な定理は、経験から取り入れることのできない必然性を持っているからである」 | Die parteiamtliche Moskauer „Prawda“ forderte die sowjetischen Wissenschaftler am Freitag auf, auf jede „Prahlsucht und Eitelkeit“ zu verzichten und *aus den westlichen Fortschritten* auf dem Gebiet der Wissenschaft zu lernen. (Zeitung) 「モスクワの党紙『プラウダ』は金曜日、ソビエトの科学者たちに、あらゆる『自慢したい欲求と虚栄心』をあきらめ、学問分野における西側の進歩から学ぼう求めた」

◆ 認識の Kriterium としての an (+ erkennen) と大関係あり。

【文例集 (70) auf, aus: S. 432-438】

⑤ 手段などの出所を指す

Die Gelder dafür werden *aus freiwilligen Spenden und Veranstaltungen* aufgebracht. 「そのためのお金は寄付と催し物の収益から調達される」 | Das Weib wurde *aus der Rippe* des Mannes erschaffen. 「女性は男性の肋骨から創られた」 | Seine Behauptung ist *aus der Luft* gegriffen. 「彼の主張していることはでっち上げである」 | Er erzählt *aus dem reichen Schatz* seiner Kenntnisse. 彼は蘊蓄をかたむける | Atomenergie wird *aus dem Atomkern-Spaltungsprozeß* gewonnen. 「原子力は原子核が分裂する過程より生じる」 | Die elegante Gestalt ist wie *aus dem Modejournal* geschnitten. (Zeitung) 「その優雅な姿は

モード雑誌から切り抜いてきたようであった」 | Er malt *aus freier Hand*. (*Duden*) 「彼は見本なしにフリーハンドで描く」 | Der reiche Stoff, worüber er verfügt, ist *aus unmittelbarer Beobachtung* geschöpft. 「彼の有する豊かな話題は直接の観察から得られたものだ」 | Frankreich ist nicht eigentlich ein Außenhandelsland. Es kann sich im großen und ganzen *aus der eigenen Scholle* ernähren. (*Zeitung*) 「フランスは本来貿易取引国ではない。フランスは大体において自国の土地で自らを養えるのである」

◆ 例外に von あり。

Wovon sollen wir das denn bezahlen? Ich habe nur noch dreißig Pfennig. (*Zeitung*) 「一体どうやってそれを払ったらいいんだい？ほくはもう30プフェニヒしか持っていないんだよ」

【文例集 (70) auf, aus: S. 439-445】

⑥ 出所、出身、由来の aus

Wir waren *aus ganz verschiedenen Lebenskreisen*. Aber wir verstanden uns. (*Holzamer*) 「我々はまったく異なった生活領域の出身だったが、理解し合うことができた」 | Ich war über die Bibliothek meines Vaters geraten, in der sich eine Anzahl schönwissenschaftlicher Bücher *aus dem Ende des vorigen Jahrhunderts* befand. (*Th. Storm*) 「私ははからずも父の蔵書にいきあたった。その中には前世紀の終わりに書かれた学術書が何冊か含まれていた」 | Sprüche *aus der Bibel* 「聖書の言葉」 | Szenen *aus Schillers Dramen* 「シラーの戯曲の場面」 | Er ist *aus königlichem Geschlecht*. 「彼は王家の家系の出である」 | Mossadegh wohnte in einem Palast wie *aus Tausendundeiner Nacht*. (*Zeitung*) 「モサデグはまるで千夜一夜物語から出てきたような宮殿に住んでいた」

【文例集 (70) auf, aus: S. 446-448】